

鎌ヶ谷市総合基本計画審議会 第2回会議 会議録

| | |
|---------------|--|
| 日 時 | 平成28年8月31日（水）14時～15時30分 |
| 場 所 | 鎌ヶ谷市役所6階 第1・2委員会室 |
| 出席委員 （敬称略） | 秋山秀一委員、菅野勝利委員、井手勝則委員、徳田訓康委員、 御代川泰久委員、今村濃太委員、山崎明委員、岩津由雄委員、 中西伸一委員、広瀬周作委員、伊藤眞由美委員、小山与之子委員、 石川宏貴委員、木下勇委員 |
| 欠席委員 | 浅田美穂子委員 |
| 市出席者 | 皆川総務企画部長、谷口総務企画部参事、小高市民生活部参事、 斉藤健康福祉部参事、若泉都市建設部次長、笠井生涯学習部参事、 鈴木消防本部参事、狩谷企画財政課長 |
| 事務局 | 大塚企画政策室長、築地企画政策室長補佐、小暮主任主事 |
| 記 録 | 小暮 |
| 傍 聴 者 | 2名 |

1 会議録署名人の選出について

会議録署名人は、名簿順に御代川委員、今村委員と決定した。

2 鎌ヶ谷市総合基本計画後期基本計画の成果指標に係る実績を踏まえた意見交換について

（1）事前の意見照会とそれを踏まえた市の考え方等について

（事務局）

～資料1・2に基づき、概要を説明～

（委員）

事務局からの説明を聞いて、何か意見・質問等あるか。

今回、後期基本計画の成果指標の実績を踏まえ、委員からたくさんの意見が市へ提出されており、どれも前向きな意見ばかりだと感じた。

その中で、例えば資料2の3ページ、NO.4とNO.5の「健やかに子どもが育つ児童福祉の推進」では、子育てや保育についての意見である。

NO.4については、待機児童対策についての意見であり、鎌ヶ谷市でも、待機児童ゼロを達成するため、引き続き、保育施設の整備を進めていくとの回答であった。

一方、NO.5では、保育所の数だけでなく、これからは、ソフト事業として、保育環境の充実化が必要であるとの意見であった。

その中で、特に意見の下段にも記載があるが、「共働きが増え保育所が必要にな

っているという事は、小学生になっても放課後の過ごし方が問題になるので「子育てしやすい町」を目指すならば保育所を増やすだけでなくその先を見据えた施策を示す事が必要と考えます。」との意見であったが、これについて、市の回答の中で、あまり触れられていないのかと思うので、もう少し詳しい説明をお願いしたい。

(鎌ケ谷市)

保育所だけでなく、その先の小学生になったときの市の施策として、例えば、放課後児童クラブの運営がある。

現在、放課後児童クラブにおける待機児童はいない状況であるが、日本全体で共働き世帯が増え、放課後児童クラブを利用する人も増えていることから、市でも「鎌ケ谷市放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例」に基づき、計画的に施設の拡充・改修を実施している。

また、今年度、鎌ケ谷小学校において、新たに放課後児童クラブを増設することで、さらなる定員の増加を図っている。

一方、ハード面だけでなく、夏休みなどの長期間を活用して、子どもに色々な経験をしてもらうことを目的として、サッカー教室や音楽などの体験教室を開催するなど、ソフト事業にも取り組んでいる。

(委員)

資料2のNO.5については、保育の環境についての提案であり、量ではなく、質が大切であることを提案していると思う。

気になった点の一点目として、私自身、30年以上前から世田谷の「冒険遊び場羽根木プレーパーク」に関わっているが、日本全体で子どもの参画を推進するための遊び場プレーパークが広がっている。

最近では、農村部でも実施しており、冒険遊び場プレーパークとこども支援センターをセットで実施しているところもあり、そういったところは、子供の人口が増えている実績がある。

施設整備の充実だけでなく、子ども主体で考え、子どもがそこでどのように育っていくかが大切である。

鎌ケ谷市の子どもが、どのような経験をし、そこで育って、市民になっていくか、子ども主体で考え、ビジョンを見せることが大事である。

もう一つ気になった点として、夏休みを利用した体験教室であるが、夏休みは時間がたくさんあり、普段体験出来ないことを経験してもらうことが、その後の思い出にも繋がると思う。

最近の研究では、自然と触れ合う子どもは、そうでない子どもと比べ、道徳観や人間関係が豊かになるといったデータもある。

サッカーや音楽教室は、普段でもできることなので、今後は自然環境を使ったプログラムも検討していければ良いと思うが、いかがか。

(鎌ケ谷市)

一点目の子どもの視点に立った質の確保について、市では平成27年度に「鎌ケ谷市子ども・子育て支援事業計画」を策定したが、その中では、何が子どもにとって良いのか、子どもの視点に立った子育て事業に取り組んでいくことを定めている。

また、量の確保だけでなく、質も考えながら、子育て施策を展開し、子どもたちが、鎌ケ谷市を故郷と思うよう取り組んでいく。

もう一点目の夏休みの体験教室について、普段の日は、子どもたちの時間もバラバラであることから、夏休みのまとまった時間を利用して様々な体験ができるよう、

平成27年度から新しく取り組んだ事業である。

今後は体験者からのアンケートを基に、子どもの成長にとって、どういった行事が必要なのか、市や保護者などと一緒に考えながら、取り組んでいきたい。

(委員)

一点目は、子育ては大人だけの視点ではなく、子どもたちがどのような体験をして、どのように感じたのかなど、アンケートを実施して、子どもたちの声を聴きながら次の計画に活かしていくことが大事である。

子どもたちも一緒に関わることで、市への愛着にも繋がっていく。

もう一点目の体験教室であるが、市が全てを実施するのではなく、色々なことを行っている市民団体とも協力しながら、団体を育て、任せていくことが大切である。

行政ができないことを市民団体が補完していくことができると良い。

(委員)

ただ今、子育てについて、大変貴重な意見があった。

そのほかにも、資料2を見て、何か意見があればお願いしたい。

(委員)

待機児童ゼロについては、自分が知っている限り、県内では、鎌ヶ谷市のみであり、大変素晴らしく、評価できることであると思う。

今後は、平成32年度に向け、今後も継続することができるかが重要である。

放課後児童クラブについては、自治会の中でも参画している人がいるが、市のやり方に問題があるとは聞いたことがない。

防災訓練についてであるが、自治会では年に1回実施しているが、参加率が自治会によって異なっている。

犯罪については、自治会で防犯パトロール隊団体を作り、市や警察、防犯協会の支援を受けながら、取り組んでおり、団体数も40件を超えている。犯罪率も減少傾向となっており、大変良いことであると思う。

自治会の課題としては、役員を担ってもらう人がいないことがある。また、自治会に加入しない未加入者も多くなっている。これが解決されれば、市が成果指標として掲げていることも達成できるのではないか。

(委員)

防犯について、お話しする。

犯罪認知件数については、年々減少しており、千葉県では、平成14年の犯罪件数は、170,000件であったが、平成27年は62,000件まで減少した。

鎌ヶ谷市においては、平成3年に発足したが、平成27年の犯罪件数は、1,111件であり、平成3年とほぼ同数で推移している。

今年も、8月26日現在で、630件となっており、昨年と比べ、100件減少している。

主な要因として、自治会や防犯ボランティアの活動が大きいと考えられる。そういったボランティア団体の方々が、平成14年から活動し始めた時から減少していることを考えると、高齢化の問題で、新たな担い手がないという課題は、とても問題である。

その理由を個人的に考えたが、今は60歳で定年しても、その後、第2の仕事場があり、65歳を超えてからようやく活動し始めることとなり、なかなか難しい。

今いる人たちの輪を広げ、市や自治会と協力しながら、続けていくことが大切であると思う。

(委員)

放課後児童クラブは、一緒にいるお兄さんお姉さんと遊んだり、宿題を見てもらったり、色々な体験をすることができる。働くお母さんにとっても、放課後児童クラブに入れて良かったと思える事業であり、私自身これまで問題を感じたことはなかった。

しかし、委員の事前の意見の中で、「最近気になっているのは、こどもの貧困問題である」との意見があり、自分がボランティアで参加した時、そういった貧困の子どもを見落としていたのかと思い、ショックを受けている。

鎌ヶ谷市にも、子どもに食事を与えられないお母さんもいるのか、こども食堂を開設しなければいけないのかとも感じており、反省しているところである。

(2) 全体を通じての意見交換

(委員)

これまでは、資料2の一覧表をご覧になった上での意見交換であったが、委員の意見を聞いていると、色々な事業にリンクしている話なので、このまま次第の2

(1)②「全体を通じての意見交換」に移りたいと思う。

全体を通じて、何か意見があれば、お願いしたい。

(委員)

5年～10年先の中期計画を考えると大きく2つのアプローチがある。

現在から見て、5～10年先を考える「課題解決型」と、20年～30年先を見据えて、5～10年先を考える「夢・希望実現型」の2つがある。

その中で、自分が提案した意見として、北千葉道路とコンパクトシティがある。

北千葉道路については、5年前までは外環道につながるのは夢であったが、現在は国が調査を進め、現実的なものとなり、市民にもアピールできるのではないかと考える。それには、都市計画図には線が入っているが、市民には分かりづらいので、絵や写真を上手にを使って、PRできると良い。

コンパクトシティについては、市民意識調査の中でも、市民は市内で生活が完結できるとなっており、大変良いまちであることから、このポテンシャルを活かし、今後近づく超高齢社会に向けて、取組みを進めていくと良い。

市民意識調査の中で、市民が一番課題に思っていることで、①防災、②防犯、③道路の3点が挙げられており、この3つの関心が高い。

③の道路について、今言った、北千葉道路やコンパクトシティによるまちづくりを進めることで、課題解決につなげられるのではないかと考える。

10年計画の中で、既に5年が過ぎたが、決まっていることだけで動くのではなく、5年前にはなかったことを取り入れながら、その先を見据え、取り組んでいければ良いと考える。

(委員)

生涯学習の観点から、子どもからお年寄りがいきいきと生活することができるにはどうしたら良いか、社会教育の観点から、どのようなまちづくりにしていくか、生涯学習審議会の中で考えている。

先程から、各方面の方々からたくさんの意見が出ているが、一つの分野だけでなく、これらの方々同士が上手につながるような事業展開ができると良い。

色々な方面の方が連携して、意見を出し合いながら、まちの質を高めていくことが大切である。

(委員)

体育協会のお話として、5年以上前から、千葉県より総合型地域スポーツクラブを運営して欲しいと求められている。これは、誰でも自由に会費を払い運営していくスポーツクラブであるが、今は子どものニーズも多様化しており、どのスポーツを実施し、運営していくか、一つの企業が実施するには難しいところである。

最初は補助金が出るが、その後についても、市のバックアップがあって初めて運営することができるものと考えている。

(委員)

防犯対策の促進についてであるが、地域の連帯意識の希薄化が課題であると考えている。

鎌ヶ谷市社会福祉協議会には、6つの協議会があるが、様々なボランティア活動を行っており、どれも地域の連携がとても大事である。

犯罪について、刑法犯認知件数は減少しているが、一方で、高齢者など弱者を対象としたネット犯罪などが増えていることから、ここでも地域の連携が重要となってくると思う。

(委員)

市民にとって何が満足なのか考えたとき、世代ごとにニーズは異なる。

世代ごとに何が不足しているのか、細かな分析ができれば良いと思う。

待機児童対策についても、何が問題なのか。例えば、シングルマザー一つを考えても、様々なケースがあり、問題を解決するには、一つ一つ原因を掘り下げていくことが重要である。

市民が生活していく上で、何が幸せなのかを分析しつつ、官民協働で取り組んでいくことが大切なのかと思う。

(委員)

成果指標の自主防災組織率についてであるが、平成20年度は66パーセントであるが、平成27年度は56パーセントとなっており、10パーセント減少している。

これは、どの地域でも同じような傾向となっており、生活が便利になれば、個人で何でもできるようになり、孤立化し、ネット犯罪につながっていく。

それを踏まえ、防犯や防災対策を考える上では、人と人とのつながりを大切にしていけることが重要である。

その中で5～10年後のあるべき姿を考えていくとき、自分が主体となって考えていくことが大事である。防災一つでも、行政任せでなく、自分の身は自分で守るなど意識をもつことが必要である。

全てつながっており、防災や子育てなど、地域ごとの将来のあるべき姿を考えながら、取り組んでいけると良い。

(委員)

高齢者になるほど、体力は落ちてくるが、運動やボランティアをしている人は、同じ年齢の人と比べても、若く感じる。

医師会としても、既存の教室に加え、様々な活動ができるよう選択肢を広げていきたいと考えている。

もう一点、医師会では、平成27年度から地域包括ケアシステムを進めている。

これは、退院した後、患者がどのようにしていくのが一番良いかを、行政、介護、医師会などが連携し合って考え、実施していくものである。

今後、高齢者がますます増加していく中で、一人一人のパフォーマンスが落ちないように、取り組んでいきたい。

(委員)

鎌ケ谷市は、施設面は充実しており、待機児童ゼロを達成しているが、子どもを預かっている保育士の待遇が心配である。

ニュースで、保育士の労働は過酷であり、給料も少ないとの報道もあるが、鎌ケ谷市の保育士はどうか。

また、今後10年～20年経った時、自治会に人がいなくなってしまうのではないかと危惧しているが、それを防いでいく方策は考えているのか。

(鎌ケ谷市)

市では、施設の整備だけでなく、保育の質を向上することも必要であると考えている。

保育士の質については、能力の向上や働く環境の改善に取り組んでいるところであり、例えば、私立保育園における保育士の業務負担軽減のため、ICTシステム(私立幼稚園就園奨励費システム)の導入を推進したりしている。ほかにも、日々の研修など実施することで、保育士の質の向上に努めている。

(委員)

公立と民間とで待遇は異なると思うが、鎌ケ谷市は頑張っていると思う。

二つ目の自治会の問題であるが、人口が減少していくのは止められないことである。その中で、どのようにすれば、今住んでいる人が住み続けてもらえるか、鎌ケ谷市に住んでみたいと思ってもらえるかを考えていくことが大事である。

これは、行政だけでなく、市民も協力しながら実施していく必要があり、そういった考えを、今後の取組みに活かしていけると良い。

(委員)

昔を振り返ると、昭和53年には南部小学校には1,000人を超える児童がいたが、10年後には、480人にまで減少している。

子育てするのに、親の負担が増えているが、夫婦で最低2人以上子どもが産まれないと人口は維持することはできない。

そのためにも、市の予算も子育て支援策を充実化し、子育てしやすい街にしていけると良い。

近隣と比べて、鎌ケ谷市は子育てしやすい街であることをPRし、鎌ケ谷市に住みたいと思える人を増やしていくことが大切である。

3 今後の進め方について

(委員)

本日で後期基本計画の実績に対する意見交換は終了となるが、今後のスケジュールや、意見の取りまとめについて、事務局から説明をお願いします。

(事務局)

～資料1に基づき、説明～

(委員)

事務局からの説明を聞いて、何か質問等あるか。

(委員)

本日の会議で、委員から貴重な意見がたくさん出たと思うが、審議会の結果として、どのようにまとめていくのか。

(事務局)

今後、資料2のように審議会からの意見として、まとめていく予定である。

(

委員)

成果指標全体の評価をするものではないということか。

(事務局)

第1回の会議で説明したとおり、会議では、後期基本計画に掲げる成果指標の達成状況を踏まえ、今後の取組みや考え方について委員から意見を聞き、それをまとめることで、次の取組みに活かしていくこととしている。

4 その他

(委員)

最後に、委員又は事務局より何かあるか。

(事務局)

皆川総務企画部長より委員にお礼を申し上げる。

(委員)

それでは、ほかに意見が無ければ、本日の会議はこれで終了とする。

以上で会議は終了した。

会議録署名人の署名

以上、会議の経過を記載し、相違ないことを証するため次に署名する。

平成28年11月16日

氏名

御代川 泰久

氏名

今村 濃太
